

実践③ 始良市立蒲生中学校

1 はじめに

本校区は、蒲生麓をはじめとする9つの文化財が日本遺産に認定された自然豊かで歴史と伝統のある地区である。蒲生八幡神社の境内にある樹齢1500年を超える日本一の大楠は、蒲生に住む人々の誇りであり、県文化財指定の田の神や武家屋敷跡の古民家も多いため、市内外から多くの人々が訪れる活気のある地域である。太鼓踊りや太鼓坊主等の伝統行事も継承され、本校生徒も活動に参加している。

生徒は、学習をはじめ生徒会、部活動等に積極的に取り組んでいる。毎朝取り組んでいるボランティア清掃活動の箒の目立てでは、生徒と職員の師弟同行の姿が見られる。

学校図書館には学校司書補が常駐し、蔵書数は8,650冊である。

2 活動の実際

(1) 朝読書

本を読むことで、心豊かな人間性を育むことや自主性及び自律性の基盤となる耐性を高めることを目的に、月・水・木・金曜日と朝会等のない朝、8時15分から8時30分まで全生徒一斉に朝読書を行っている。8時10分までには着席し、8時15分にはスタートできるように生徒会文化部が呼び掛け、落ち着いた雰囲気の中で本を読むことができている。

毎週木曜日は教師（担任・副担任）も教室に入り、生徒と共に読書をする全員読書の日としている。教師（大人）が読書をしている姿は、生涯にわたる自立した読者の姿を示すとともに、生徒の読書意欲を高める点でも効果的である。

(2) 地域と連携した読み聞かせ

朝読書の時間帯で毎月1回は、地域の読み聞かせボランティア「かもろ親子読書会＊Hana Hana＊」さんから各学級（全学年対象）に読み聞かせをしていただいている。コロナ禍で一時は活動中止を余儀なくされたが、現在は再開し、読書指導係が連絡を取って実施日等の調整をしている。

生徒たちの興味や年代にふさわしい本を選書してくださり、読み手も男性の方や女性の方、英語で読み聞かせをしてくださる方と様々で、生徒に読書の楽しさを伝えてくださる。生徒たちはこの時間を楽しみにしており、じっくりと聞き入っている。生徒の感性や情操を育む貴重な時間となっている。



朝の読み聞かせに聞き入る生徒

(3) 生徒会の取組

生徒会文化部が「お気に入りの一冊を見つけよう」をテーマに全校生徒のお気に入りの一冊を集約してランキングを作成し、生徒会掲示板に掲示した。紹介された本を探しに図書館を訪れる生徒もおり、生徒の主体的な読書活動につながった。

また、県立図書館主催の「宝本エピソード」の取組にもつながり、生徒自身の読書を振り返る機会となった。



生徒会の主体的な取組

(4) 図書館利活用の工夫

図書館の利活用の活性化のために、学校司書と全職員が情報共有し、生徒の読書活動を支えている。

7月14日の県民の日（廃藩置県によって、鹿児島県が生まれた日）に合わせてイベントを開催した。図書館で様々なジャンルの本を手に取り、たくさん読書をしてほしいと「読解力祭」とネーミングした。鹿児島の偉人コーナーを特設するとともに、生徒が鹿児島県の良いところを記した短冊をつるした七夕飾りを設置した。また、図書館活用の更なる向上を願って神輿を作り、給食直後の時間を利用して生徒有志が神輿を担いで、「図書館へ行こう！」と各学級を回った。

日頃は積極的に本を手にしないう生徒たちでも、生徒主体のイベントをきっかけに、図書館に自ら通う様子が見られる。



県民の日の七夕飾り



イベントを盛り上げる神輿

3 今後の課題

読書の習慣は学校だけで身に付くものではない。読書習慣が身に付いている生徒もいればそうでない生徒もおり、家庭との連携の必要性を感じる。そのために図書館だよりで情報発信をしたり、PTAで話題にしたりしているところである。更に踏み込んで、生徒のアイデアも取り入れながら読書の大切さや楽しさを感じ取ってくれるような情報発信の工夫をして、家庭読書の時間を充実させたいと考えている。



神輿を担ぎ教室を回る生徒

4 おわりに

地域の読み聞かせボランティア*Hana Hana*さんによる読み聞かせは、本校にとって大変意義のある取組である。今後もしっかりと連携を図り取組を継続していきたい。

また、校内でも、図書館と読書指導係との連携を中心に、学校全体で読書活動の更なる推進を図っていきたい。そのためにも、生徒や職員が利用しやすい図書館づくりを目指して、地域の公共図書館とも連携を図りながら取組を進めていきたい。